環境経営レポート

令和3年度版

（対象期間：令和3年１０月～令和4年９月）

CLEAN POWER

きれいな街づくりのお手伝い

クリーン総業株式会社

エコアクション21
認証番号 0001774

令和4年１０月３１日作成

目　　次

Ⅰ　組織の概要　・・・・・・・・・　Ｐ１～Ｐ６

１．　事業者名及び代表者氏名　・・・・・・・・・　Ｐ１

２．　所在地　・・・・・・・・・　Ｐ１

３．　資本金　・・・・・・・・・　Ｐ１

４．　法人設立年月日　・・・・・・・・・　Ｐ１

５．　売上高　・・・・・・・・・　Ｐ１

６．　事業活動の概要　・・・・・・・・・　Ｐ１

７．　事業規模等　・・・・・・・・・　Ｐ２

（１）　組織図
（２）　従業員数

８．　許可の概要　・・・・・・・・・　Ｐ３

（１）　産業廃棄物収集運搬業許可
（２）　産業廃棄物処分業許可

９．　施設等の状況　・・・・・・・・・　Ｐ４

（１）　作業車両
（２）　処理施設

１０．　処理の工程　・・・・・・・・・　Ｐ５

（１）　処理フロー図

１１．　廃棄物取扱いの実績　・・・・・・・・・　Ｐ６

（１）　汚泥取扱実績
（２）　汚泥以外の産業廃棄物の取扱実績

Ⅱ　ＥＡ２１ 対象範囲　・・・・・・・・・　Ｐ７

Ⅲ　環境経営方針　・・・・・・・・・　Ｐ８

Ⅳ　環境経営目標　・・・・・・・・・　Ｐ９

Ⅴ　環境経営目標の実績及び次年度の環境経営目標・・・・・・・・・　Ｐ１０～Ｐ１１

Ⅵ　環境経営計画と取組の評価及び次年度の環境経営計画　・・・・・・・・・　Ｐ１２～Ｐ１３

（１）　環境経営計画と取組の評価
（２）　次年度の環境経営計画
（３）　評価のまとめ

Ⅶ　環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無　・・・・・・・・・　Ｐ１４

Ⅷ　代表者による全体の評価及び見直し・指示　・・・・・・・・・　Ｐ１５

Ⅸ　地域･社会貢献　・・・・・・・・・　Ｐ１６

Ⅰ　組織の概要

1.　事業者名及び代表者名

事業者名　：クリーン総業　株式会社
代表者名　：代表取締役　大石　保男
ホームページ　：http://www.clean-s.jp
環境管理責任者　：小川　正人
連絡先　：TEL ０２５８－２２－０００８　FAX ０２５８－２３－１８８４

2.　所在地

越路営業所　：新潟県長岡市釜ヶ島字藤場２５２０番地
汚泥中間処理場　：新潟県長岡市釜ヶ島字藤場２５１４番地
ストックヤード　：新潟県長岡市西野字泉島１２３２
魚沼営業所　：新潟県魚沼市須原１０００－１　※転送電話が有るのみで無人です。
新潟営業所　：新潟県新潟市中央区出来島1丁目5番1号
本社(登記上)　：新潟県長岡市南町２丁目４番４号　（登記のみで無人です。）

3.　資本金

２０００万円

4.　法人設立年月日

昭和58年3月1日

5.　売上高

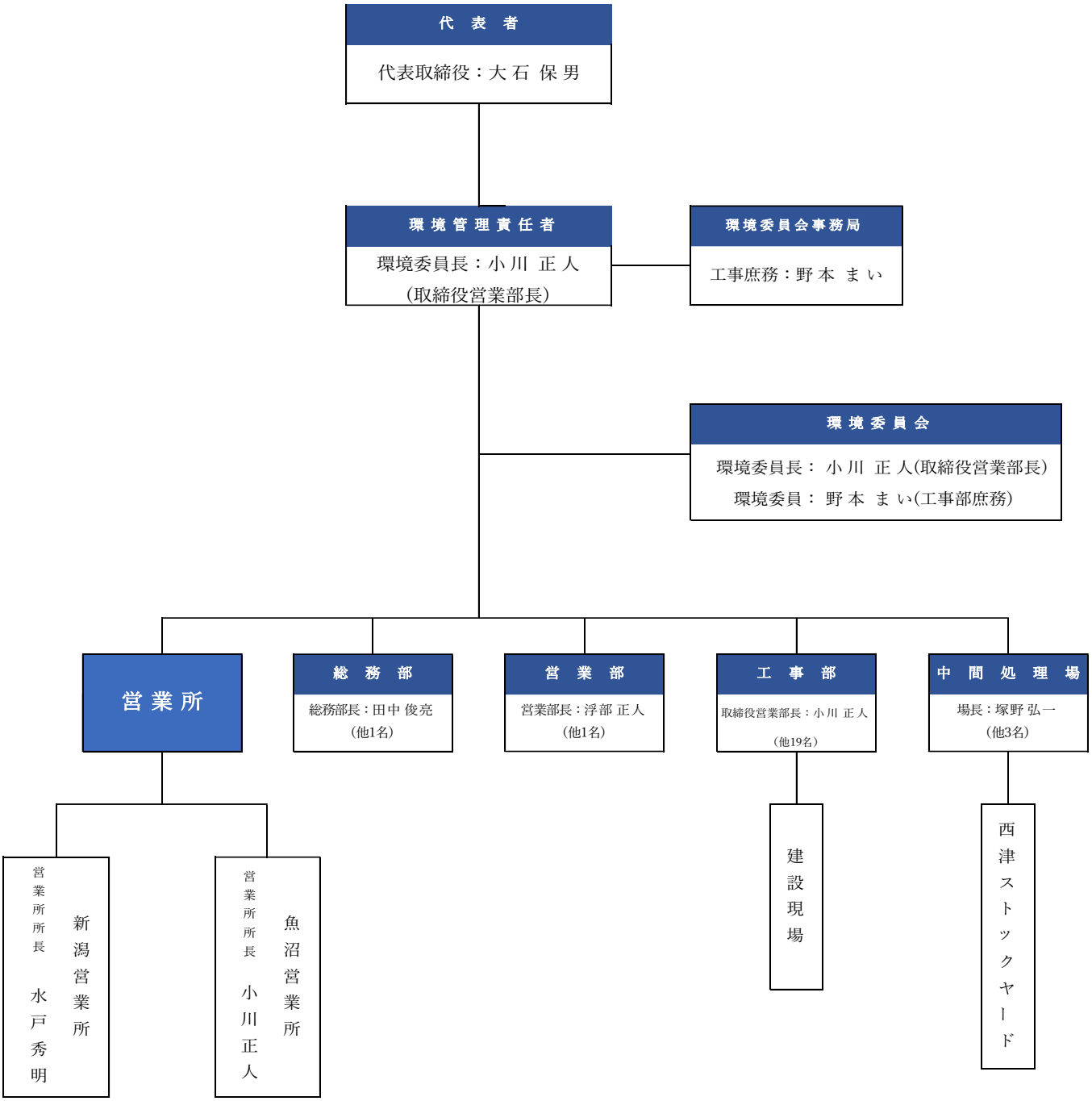
年度	令和元年度	令和２年度	令和3年度
売上高	４７７百万円	５１８百万円	７６０百万円

6.　事業活動の概要

・産業廃棄物処理業（収集運搬･中間処理）　・下水道管路施設維持管理業
・リサイクル改良土販売業　・土木工事業

7.　事業の規模等

（1）組織図



図－1　　クリーン総業　株式会社　　組織図

（2）従業員

合計　：　29人（代表取締役含む）

（3）役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表者	• 環境経営関する統括責任
	• 経営における課題とチャンスの明確化
	• 環境経営システムの承認及び見直し
	• 実施体制の構築と経営資源(環境経営システムの実施に要する人材、設備、技術者)の用意
	• 環境経営管理責任者の任命
	• 環境経営方針の策定・見直し、及び全従業員への周知
	• 環境経営目標・環境経営計画の承認
	• 全体の取組状況の評価と見直し・指示
	• 環境経営レポートの承認
環境経営管理責任者	• 環境経営システムの構築、実施、管理
	• 環境関連法規一覧の承認
	• 環境経営目標・環境経営計画の確認
	• 環境経営取組結果を代表者へ報告
	• 環境経営レポートの確認
	• 従業員に対する教育・訓練の実施
環境委員会事務局	• 環境経営管理責任者の補佐
	• 環境への負荷と環境への取組実況の自己チェック
	• 環境経営目標、環境経営計画原案の作成
	• 環境関連法規一覧表の作成・遵守評価の実施
	• 環境経営レポートの作成
全従業員	• 環境経営方針への理解、環境への取組の重要性の自覚
	• 決まりを守り、積極的な環境経営活動への参加

8.　許可の概要

（1）産業廃棄物収集運搬業許可

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鉱さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1504000434	令和2年6月26日 ～ 令和7年6月25日	○	○	○	○	○	○	○				○	○				積替え･保管を除く
群馬県	1000000434	令和4年5月7日 ～ 令和9年5月6日	○	○	○	○	○	○	○				○	○				
長野県	2009000434	令和4年5月29日 ～ 令和9年5月28日	○															
山形県	609000434	令和2年10月20日 ～ 令和7年10月19日	○				○	○	○					○				

（1）産業廃棄物収集運搬業許可（特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証）

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鉱さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1554000434	平成30年8月12日 ～ 令和5年8月11日													○			揮発油類･灯油類及び軽油類に限る。

（2）産業廃棄物処分業許可

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	汚泥	鉱さい	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック	ガラスくず コンクリートくず 及び陶器くず	金属くず	ゴムくず	紙くず	繊維くず	木くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	備考
新潟県	1524000434	令和2年6月26日 ～ 令和7年6月25日	○															処理方法: 脱水･造粒固化

（3）特定建設業許可

行政区分	許可番号	許可年月日 有効期限	土木工事業	建築工事業	大工工事業	左官工事業	とび・土木工事業	石工事業	屋根工事業	電気工事業	管工事業	タイル・れんがブロック工事業	鋼構造物工事業	鉄筋工事業	ほ装工事業	しゅんせつ工事業	板金工事業	ガラス工事業	塗装工事業	防水工事業	内装仕上工事業	機械器具設置工事業	熱絶縁工事業	電気通信工事業	造園工事業	さく井工事業	建具工事業	水道施設工事業	消防施設工事業	清掃工事業	解体工事業
新潟県	新潟県知事 許可 (特-3)第17301号	令和3年5月19日 ～ 令和8年5月18日	○				○									○												○			

９．　施設等の状況

（１）作業車両

ア　産業廃棄物収集運搬

表－１　収集運搬使用車輌

車輌の種類	最大積載量（ｋｇ）	台数
１１t 強力吸引車	7400 ～ 9880	5
6t 強力吸引車	3620～4320	2
4t 強力吸引車	2590	1
１０t ダンプ	9000 ～ 9400	4
2t ダンプ	2000	1
2t トラック	2000	1

イ　排水施設の清掃･補修･維持管理

表－２　排水設備清掃･補修等使用車輌

車輌の種類	台数	車輌の種類	台数
４ｔ 高圧洗浄車	2	カメラ搭載車	2
４ｔ 給水車	1	２ｔ 工作車	1
２ｔ補修プラント車	1		

（２）処理施設

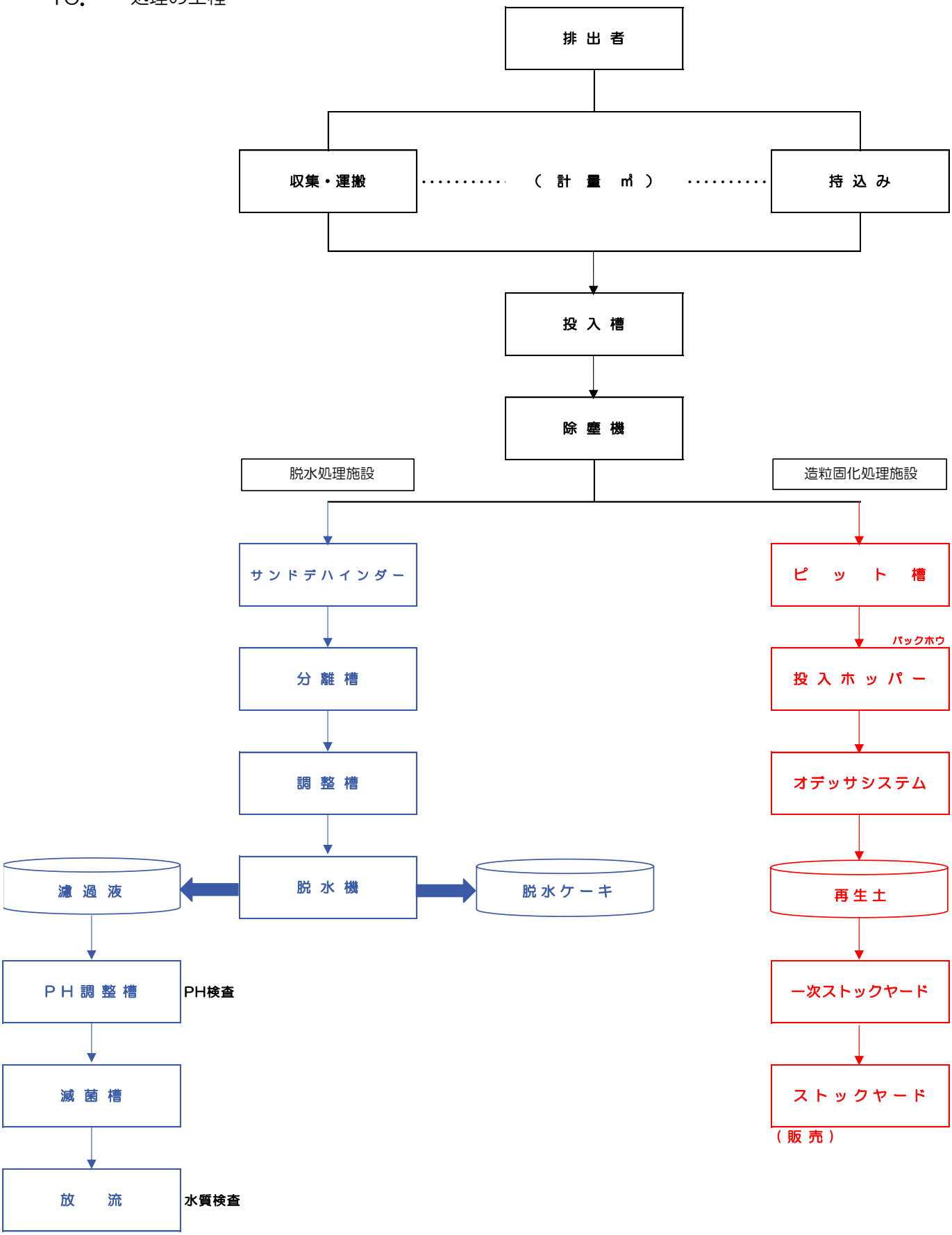
ア　脱水処理施設

設置場所　：　新潟県長岡市釜ヶ島藤場2514番地
処理する産業廃棄物：　汚泥
設置年月日　：　平成２年　９月　１日
処理能力　：　16㎥/日
処理方法　：　脱水

イ　造粒固化処理施設

設置場所　：　新潟県長岡市釜ヶ島藤場2514番地
施設の数　：　２基
処理する産業廃棄物：　汚泥
設置年月日　：　平成１３年　２月１９日
　　平成１４年　２月２０日
処理能力　：　２４０㎥/日（２基）
処理方法　：　造粒固化

10.　処理の工程



※オデッサシステム：脱水、排ガス、汚水、悪臭の発生なし

図－2　処理フロー図

11.　廃棄物取扱の実績

（1）汚泥の取扱実績

表－３　汚泥（建設汚泥）の取扱実績　（単位：ｔ）

処理の内容	令和元年度	令和２年度	令和3年度
収集運搬量	19,155	15,372	26,596
受託処理量	25,636	24,247	35,388
脱水処理	実績なし	実績なし	実績なし
造粒固化処理	25,636	24,247	35,388
再生資源化量	23,203	21,593	35,922

（2）汚泥以外の産業廃棄物の取扱実績

建設汚泥以外の産業廃棄物の収集運搬はありません。

Ⅱ　対象範囲（認証・登録範囲）

（1）　組織　：　越路営業所、汚泥中間処理場、ストックヤード、魚沼営業所

（2）　活動　：　全活動

Ⅲ　環　境　経　営　方　針

環　境　経　営　方　針

環　境　理　念

クリーン総業株式会社は、下水道管路施設等の維持管理及び管路堆積物汚泥や建設副産物として発生する建設汚泥等の収集・運搬並びに中間(再生)処理、汚泥のリサイクル製品販売を行っています。これらの事業の展開により、当社の経営理念である「きれいな街づくりのお手伝い」を進めながら、土壌及び水環境保全並びに廃棄物対策など地域の環境保全に貢献したいと考えています。

このため、当社は「かけがえのない地球の環境保全」を環境理念として事業活動を行い、地球環境保全への取組みの第1歩として足元の地球環境保全及び循環型社会の構築に取組を推進いたします。

また、資源を大切に使い尚且つそれらの再利用を繰り返してきた、先人達の「もったいない」という精神を受継ぎ、省資源・省エネルギーの一層推進し、当社から当社従業員の家庭へと取組みの輪を広げることにより、地球社会における環境活動の促進を図り、豊かな国土を次世代に引継ぐ努力をします。

環　境　経　営　方　針

1　日常業務の実施においては、環境関連の法規則を遵守します。

2　汚泥の収集・運搬車輌のエコドライブを進め、省エネと排気ガスの抑制に努めます。

3　事業実施により排出する廃棄物の削減に努めます。

4　産業廃棄物中間処理に使用する薬品は、使用の効率化を図り、省資源化に努めます。

5　地下水揚水量を適切に管理し、地下水揚水量を削減することにより排水量の削減に努めます。

6　事務用品及び機器等にグリーン化を図り、再生資源の利用と省エネに努めます。

当社は、環境経営方針を達成するため、全社員の環境意識の向上を図るとともに環境経営システムを構築し、これを適切に運用し、全員参加のもとに継続的に環境活動の改善を図ってまいります。

制定日　：　2006年　7月 27日
改定日　：　2009年 11月 17日

クリーン総業　株式会社

代表取締役　大石　保男

Ⅳ　環　境　経　営　目　標

３カ年環境経営目標

表-4　3カ年環境経営目標（令和元年度～令和３年度）

	取組項目		基準数値						年間環境経営目標(汚泥1t当りCO_2排出量より削減)		
			H24	H26	H24・H26年度平均	単位		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	■ CO_2排出量削減	CO_2排出量	455,099.038	455.898.145	455,498.592	kg-CO_2	目標値	-4% 25.295(kg-CO2/t)	-5% 25.032(kg-CO2/t)	-6% 24.768(kg-CO2/t)
1	(1) 電力由来の CO_2排出量削減	$CO_{3排出量}$	38,424.496	40,692.015	39,558.256	kg-CO_3	目標値	2.197(kg-CO2/t)	2.174(kg-CO2/t)	2.151(kg-CO2/t)
	(2) 軽油由来の CO_2排出量削減	$CO_{4排出量}$	376,204.991	376,620.466	376,412.729	kg-CO_4	目標値	20.904(kg-CO2/t)	20.687(kg-CO2/t)	20.469(kg-CO2/t)
	(3) ｶﾞｿﾘﾝ由来の CO_2排出量削減	$CO_{5排出量}$	40,469.551	38,585.664	39,527.608	kg-CO_5	目標値	2.194(kg-CO2/t)	2.171(kg-CO2/t)	2.148(kg-CO2/t)

	■廃棄物の排出量削減	基準年度	基準数値						年間環境経営目標		
							単位		令和元年度	令和2年度	令和3年度
2	(1) 受託汚泥の再資源化率の維持	H26年度	98% (汚泥100%)					目標値	再資源化率 98%以上	再資源化率 98%以上	再資源化率 98%以上
			処分量	29,252.981	再資源化量	29,252.981	t	目標値	中間処理済建設汚泥 100%活用	中間処理済建設汚泥 100%活用	中間処理済建設汚泥 100%活用
	(2) 自社一般廃棄物の再資源化率の維持	H22年度	再資源化率 35%以上					目標値	再資源化率 35%以上	再資源化率 35%以上	再資源化率 35%以上
			排出量	617.03	再資源化量	301.26	kg	目標値	基準数量より-7% 573.84kg	基準数量より-7% 573.84kg	基準数量より-7% 573.84kg
	(3) 紙類有効活用率の向上	R１年度	紙類有効活用率：50%					目標値		自社排出一般廃棄物の紙類有効活用率 50%以上	自社排出一般廃棄物の紙類有効活用率 50%以上
			紙類排出量	338.80	一般廃棄物排出量	587.40	kg				
	■コピー用紙使用量(購入量)の削減										
3	(1) コピー用紙購入量削減	H30年度	購入量 324.90				kg	目標値	基準数量より-3% 315.15kg	基準数量より-4% 311.90kg	基準数量より-5% 308.65kg

	取組項目		基準数値						年間環境経営目標(汚泥1t当り揚水量より削減)		
	■縦排水量の削減		H24	H26	H24・H26年度平均	単位		令和元年度	令和2年度	令和3年度
4	(1) 地下水使用量の削減	使用量	6,856.1	9,332.4	8094.3	㎥	目標値	-4% 0.523(㎥/t)	-5% 0.517(㎥/t)	-6% 0.512(㎥/t)
	■汚泥再資源化用薬剤使用量の削減								年間環境経営目標(汚泥1t当り使用量より削減)	
5	(1) 固化材使用量の削減	使用量	2,183.7	2,575.3	2,379.5	t	目標値	-4% 0.126(t/t)	-5% 0.125(t/t)	-6% 0.124(t/t)

※ PRTR制度対象の化学物質を使用していない為、目標を定めていない。

※ 二酸化炭素排出係数は平成29年度実績の東北電力㈱の調整後排出係数0.523(kg-CO2/ｋWh)を使用した。

※ 基準年度数量の原単位は、H24.26年度の汚泥処理量17,283.805tである。

Ⅴ　環境経営目標の実績及び次年度の環境経営目標

（1）環境経営目標の実績

表-5　令和３年度の目標値と実績・評価

	取組項目	年間環境経営目標 基準数値 (kg-CO_2) H24	H26	H24・H26年度平均	汚泥1t当りの CO_2排出量 基準年度より-6% (kg-CO_2/t) 目標値	実績	目標値比(%)	評価
	■ CO_2排出量削減 基準年度：H24.H26年度平均	455,099.038	455,898.145	455,498.592	24.768	14.336	▲ 42.12	○
1	(1) 電力由来の CO_2排出量削減	38,424.496	40,692.015	39,558.256	2.151	1.993	▲ 7.35	○
1	(2) 軽油由来の CO_2排出量削減	376,204.991	376,620.466	376,412.729	20.469	11.664	▲ 43.02	○
1	(3) ｶﾞﾘﾝ由来の CO_2排出量削減	40,469.551	38,585.664	39,527.608	2.148	0.679	▲ 68.39	○

二酸化炭素総排出量
515,979.350 (kg-CO_2)

	■廃棄物の排出量削減	年間環境経営目標 基準数値				目標値	実績			目標値比(%)	評価
2	(1) 受託汚泥の再資源化率の維持 基準年度：H26年度	98%（汚泥100%）				再資源化率 98%以上	再資源化率 100%			2.00	○
2	(1)	処分量	29252.981t	再資源化量	29252.981t	中間処理済建設汚泥 100%活用	処分量 35,388.636t / 再資源化量 35,388.636t	中間処理済建設汚泥 100%活用		0.00	○
2	(2) 自社一般廃棄物の再資源化率の維持 基準年度：H22年度	再資源化率 35%以上				再資源化率 35%以上	再資源化率 37.71%			2.71	○
2	(2)	排出量	617.03kg	再資源化量	301.26kg	基準数量より-7% 573.84kg	処分量 505.2kg	再資源化量	190.5kg	▲ 68.64	○
2	(3) 紙類有効活用率の向上 基準年度：R1年度	紙類有効活用率：50%				自社排出一般廃棄物の紙類有効活用率 50%以上	一般廃棄物排出量 505.2kg / 紙排出量 190.5kg	自社排出一般廃棄物の紙類有効活用率 37.71%		▲ 12.29	×
2	(3)	紙類排出量	338.80kg	一般廃棄物排出量	587.40kg						

	■コピー用紙使用量(購入量)の削減 基準年度：H30年度	年間環境経営目標 基準数値	基準数量より-5% 目標値	実績	目標値比(%)	評価
3	(1) コピー用紙購入量削減	kg 324.90	kg 308.66	年間購入量 319.00	10.34	×

	■総排水量の削減 基準年度：H24.H26年度平均	年間環境経営目標 基準数値 ㎥ H24	H26	H24・H26年度平均	汚泥1t当りの揚水量より削減 基準年度より-6% ㎥／t 目標値	実績	目標値比(%)	評価
4	(1) 地下水使用量の削減	6,856.1	9,332.4	8094.3	0.512	年間使用量 0.257	▲ 0.255	○

	■汚泥再資源化用薬剤使用量の削減 基準年度：H24.H26年度平均	年間環境経営目標 基準数値 t H24	H26	H24・H26年度平均	汚泥1t当りの揚水量より削減 基準年度より-6% t / t 目標値	実績	目標値比(%)	評価
5	(1) 固化材使用量の削減	2,183.7	2,575.3	2,379.5	0.124	年間使用量 0.093	▲ 0.031	○

※ PRTR制度対象の化学物質を使用していない為、目標を定めていない。
※ 取組年度の二酸化炭素排出量は、調整後排出係数として、それぞれ東北電力㈱の0.523(kg-CO2/kWh)及び㈱リコージャパンの0.494(kg-CO2/kW
用いて計算した排出量を合計して得た数値である。
※ 基準年度数量の原単位は、H24.26年度の汚泥処理量17,283.805tである。
※ 令和3年度の原単位である汚泥処理量は、35,388.636tである。

○：目標達成

×：未達成

（2）次年度の環境経営目標

次年度は、令和3年度の排出数値を基準に目標値を定め、環境経営計画に則って活動を行う。

3カ年環境経営目標（令和４年度～令和６年度）

取組項目		基準年度 令和3年度			年間環境経営目標(汚泥1t当りCO_2排出量より削減)		
					令和４年度	令和５年度	令和６年度
	単位	総排出量	単位	汚泥1t当り	-1%	-2%	-3%
1 ■ CO_2排出量削減	kg-CO_2	498,817.224	kg-CO_2/t	14.089	13.947	13.806	13.665
(1) 電力由来の CO_2排出量削減	kg-CO_2	61,858.213	kg-CO_2/t	1.746	1.728	1.711	1.693
(2) 軽油由来の CO_2排出量削減	kg-CO_2	412,833.540	kg-CO_2/t	11.664	11.547	11.430	11.314
(3) ｶﾞﾘﾝ由来の CO_2排出量削減	kg-CO_2	24,125.471	kg-CO_2/t	0.679	0.672	0.665	0.658

取組項目 ■廃棄物の排出量削減			基準年度 令和3年度		年間環境経営目標 令和４年度	令和５年度	令和６年度
		単位					
2 (1) 受託汚泥の再資源化率の維持			98%（汚泥100%）		再資源化率98%以上	再資源化率98%以上	再資源化率98%以上
(下水道管路施設維持管理業における汚泥を含む)		t	処理量	35,388.636	中間処理済建設汚泥100%活用	中間処理済建設汚泥100%活用	中間処理済建設汚泥100%活用
			再資源化量	35,388.636			
(2) 自社一般廃棄物の再資源化率の維持			再資源化率35%以上		再資源化率35%以上	再資源化率35%以上	再資源化率35%以上
		kg	排出量	505.20	基準数量より-1%	基準数量より-2%	基準数量より-3%
			再資源化量	190.50	500.15	495.10	490.04

取組項目	基準数値 令和3年度		年間環境経営目標(汚泥1t当りの地下水使用量より削減) 令和４年度	令和５年度	令和６年度
■コピー用紙使用量(購入量)の削減	単位	購入量	-1%	-2%	-3%
3 (1) コピー用紙購入量削減	kg	319.0	315.8	312.6	309.4

取組項目	基準数値 令和3年度				年間環境経営目標(汚泥1t当りの地下水使用量より削減) 令和４年度	令和５年度	令和６年度
■総排水量の削減	単位	使用量	単位	汚泥1t当り	-1%	-2%	-3%
4 (1) 地下水使用量の削減	㎥	9,107.2	㎥/t	0.257	0.254	0.252	0.249

取組項目	基準数値 令和3年度				年間環境経営目標(汚泥1t当りの固化材使用量より削減) 令和４年度	令和５年度	令和６年度
■汚泥再資源化用薬剤使用量の削減	単位	使用量	単位	汚泥1t当り	-1%	-2%	-3%
5 (1) 固化材使用量の削減	t	3,308.6	t/t	0.093	0.092	0.091	0.090

※ PRTR制度対象の化学物質を使用していない為、目標を定めていない。

※ 二酸化炭素排出係数は令和3年度実績の調整後排出係数(東北電力㈱：0.457(kg-CO_2/kWh)・㈱リコージャパン：0.441(kg-CO2/kWh)）を使用した。

※新たに3カ年目標を定めるにあたり、電力の排出係数の見直しを行った為、令和3年度のCO_2排出量の数値に差異が生じております。

※ 基準年度数量の原単位は、R3年度の汚泥処理量35,388.636tである。

Ⅵ　環境経営計画と取組の評価及び次年度の環境経営計画

（１）環境経営計画と取組の評価　　表-６

環境経営計画の実施状況は、表-6の「取組評価・内容」に示した通りです。
また、環境経営目標の達成状況と組合せた「総合評価」を実施しました。

令和３年度取組項目	取組評価・内容	総合評価
１ 二酸化炭素排出量削減 (1)購入電力量の削減 ・退社時のｴｱｺﾝの消忘れ防止。 ・昼休み時の消灯。 ・不必要箇所の消灯。	Ａ：退社時には冷房を消したかチェック後に退社した。 Ａ：昼休みにはPCの電源や照明等を消した。 Ａ：使用しない部屋の照明を消すように努めた。	評価　Ａ
(2)(3)化石燃料の使用削減 ・駐車時のｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟ。 ・車両整備による燃費の向上。 ・始業前点検を行う。 ・法定速度を厳守。	Ａ：駐停車時のアイドリングストップに心掛けた。 Ａ：定期的に車両整備を行っていた。 Ａ：始業前点検表を作成し、毎日点検を行った。 Ａ：ﾀｺﾒｰﾀで、法定速度を守っているか確認している。	評価　Ａ
２ 廃棄物の排出量削減 (1)受託産業廃棄物の有効活用率98%以上 ・処理した汚泥の活用を図る。 ・再生可能施設への委託。	Ａ：土木資材として販売を行った。 Ａ：分別を行い、各再生可能施設に委託を行った。	評価　Ａ
(2)一般廃棄物の再資源化率の維持 ・ミスプリントを無くす。 ・ごみ分別の徹底。 ・両面印刷の徹底。 ・使用済用紙の裏面利用。	Ａ：PCの内容をよく確認した後に印刷を行うよう心掛けた。 Ａ：ごみ分別を徹底的に行い、再資源化に努めた。 Ａ：両面印刷が可能なものは、両面印刷を行うよう心掛けた。 Ａ：使用済コピー用紙は分別･保管し、裏面利用しやすいよう心掛けた。	評価　Ｂ
３ コピー用紙等紙使用(購入)量削減 (1)コピー用紙等紙使用(購入)量削減 ・コピー用紙の在庫管理を徹底。 ・ごみ分別の徹底。 ・使用済用紙の裏面利用。 ・両面印刷の徹底。	Ａ：コピー用紙在庫チェック表を作成して管理した。 Ａ：使用済みコピー用紙は分別･保管場所を明確にする事により、裏面利用が徹底された。 Ａ：両面印刷が可能なものは、両面印刷を行うよう心掛けた。	評価　Ｂ
４ 地下水使用量の削減 (1)地下水使用量の削減 ・清掃の際には洗車水の水圧を上げて作業する。 ・清掃作業車残水の翌日使用。（冬期以外） ・降雪がない時は消雪水を停止する。 ・清掃手順を明確にし、迅速に清掃を行う。	Ａ：水圧を上げて、迅速に清掃を行った。 Ａ：冬期は凍結の可能性があるので、残水を翌日に使用する事が出来ないが、冬期以外は翌日使用を心掛けた。 Ａ：消雪を手動にし、降雪がある時に水を出すよう心掛けた。 Ａ：清掃手順を明確にし、迅速に清掃を行った。	評価　Ａ
５ 固化材使用量の削減 (1)固化材使用量の削減	Ａ：造粒機槽に投入する際は、タンク内の上水を除去してから投入するよう徹底した。	評価　Ａ

注)

【取組評価】
- Ａ：取組が極めて順調である。
- Ｂ：取組がまあまあである(普通)
- Ｃ：取組がうまくいっていない

【総合評価】
- Ａ：取組が順調に行われ、目標を達成できた。
- Ｂ：取組が順調に行われたが、目標を達成できなかった。
- Ｃ：取組が徹底せず目標を達成できなかった。
- Ｄ：取組が徹底しなかったが目標を達成できた。

（2）次年度の環境経営計画

環境経営計画を把握し、継続して活動すると共に、今年度目標未達成の項目について、普段から削減に心掛ける。
紙類の排出量が要因と考えられるので、資料作成時は、印刷時のチェック、必要ページ数の確認、内部資料の両面印刷の徹底に努める。

（3）　評価のまとめ

全体

環境経営計画の活動内容を把握し、順調に取り組んできました。
今年度も昨年度同様、汚泥処理量を作業量とし、汚泥1t当りのCO2排出量を目標値として定め、エコ活動を実施いたしました。結果、ほぼ全ての項目に於いてCO2排出量削減の目標を達成することが出来ました。
コピー用紙の購入量の削減が未達成となった原因として、調査、更生時の書類作成時に生じるミスプリント等を要因として考え、印刷時のページチェックの徹底と両面印刷に努め、使用量の削減値を上昇させることが、今後の課題となりました。
紙類の再資源化率向上に関してましては、目標値達成とはなりませんでしたが、一般廃棄物の排出量は年間を通して累計目標値を達成出来ているため、全体の排出量は徐々に減少傾向にあると考え、環境経営目標の項目から外し、引き続き、有効活用率の維持と一般破棄物の排出量削減に努めます。

1　（1）二酸化炭素排出量の削減

購入電力・化石燃料の削減について、今年度は昨年同様、作業量を考慮した目標値を定め環境活動計画に取組んできました。その結果、軽油・ガソリンの年間を通しての累計では目標を達成する事が出来ました。
今後も環境経営計画に遵守し、使用量削減に努めます。

2　（1）自社排出産業廃棄物の再資源化率の向上

自社排出産業廃棄物の汚泥は、100%再生土として処理し、活用しました。

（2）自社排出一般廃棄物の削減

今年度も環境経営計画の取組みを順調に行い、廃棄物排出量削減の目標を達成することが出来ました。
反面、紙類の再資源化率については目標未達成となってしまいましたが、全体の排出量が減少傾向であると考え、次年度からの目標項目からは外し、ごみを捨てる際の仕分けの徹底は変わらずに行い、今後も再資源化率の維持と、排出量の削減に努めます。

3　（1）コピー用紙購入量の削減

調査依頼、書類作成を念頭に置いての目標値を設定しておりましたが、目標未達成となってしまいました。
使用量の増加原因として、プリントミス、ページ設定ミス等が考えられるので、印刷前のチェック、内部資料の裏紙使用、両面印刷の徹底を心掛けて、目標達成に努めます。

4　（1）地下水使用量の削減

環境活動計画の取組みを順調に行い、目標を達成する事が出来ました。
今後も環境経営計画を継続して取組み、目標達成に努めます。

5　（1）固化材添加量及び凝集薬品の削減

昨年度同様、冬期間中含水比の多い汚泥が持ち込まれ、月別目標値を達成できない月もありましたが、年間を通しての使用量は削減することが出来ました。今後も環境活動計画の取組みを継続して行い、固化材使用量の削努めます。

Ⅶ　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける環境関連法規制は次の通り

適　用　さ　れ　る　法　規　制	毎月の確認	遵守評価
廃棄物処理法	実施	違反なし
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	実施	違反なし
浄化槽法	実施	違反なし
毒物及び劇物取締法	実施	違反なし
フロン排出抑制法	実施	違反なし
家電リサイクル法	実施	違反なし
自動車リサイクル法	実施	違反なし
建設リサイクル法	実施	違反なし

環境法規等遵守状況を月1回の環境関連法規等遵守状況チェックリストにより遵守状況をチェックし、確認しています。その結果、環境関連法規への違反はありませんでした。
尚、関係当局より違反等の指摘は、ありませんでした。また地域住民からのクレームもなく、訴訟もありませんでした。

Ⅷ　代表者による全体の評価と見直し・指示

作　成　：　令和4年１０月３１日
作成者　：　環 境 委 員 会 事 務 局

代表者によるエコアクション２１取組状況の評価と見直し・指示

項　目	変更の必要	評価結果及び指示事項
環境経営方針	□ 有り ☑ 無し	・ 現行通りにする。
環境経営目標	□ 有り ☑ 無し	・ 今年度同様、汚泥量1t当りのCO2排出量を目標として３カ年目標を立てる事とする。
環境経営計画	□ 有り ☑ 無し	・ 現行通りとし、継続する事。
実施体制	□ 有り ☑ 無し	・ 現行通りにする。
その他環境経営システム	□ 有り ☑ 無し	・ 有効に機能している事から、現行通りにする。
代表者の総括	・ 全職員が環境関連法規等を理解、遵守したうえで環境理念に従い、事業活動を実施する。このことが企業経営の理念となり、また礎でもあり根幹を成す方針であることを認識して業務に当たる。 ・ 環境経営計画と取組みの評価については、一部項目を除き、目標達成しているが、更なる目標達成への努力が必要である。引き続き、全職員が環境経営計画について理解し、業務に当たることが肝要であると考える。 ・ 再生土については、長岡市の左岸バイパス工事発注に合わせ、盛土材としての利用を依頼してきたが遅れが生じているとのことであり、新規に草生津地区に仮置き場を設けることにした。引き続き、他機関への販売営業をさらに促進する必要がある。 ・ 環境関連への社会的要求は、一層高まっていることを念頭に、目標達成に努力願いたい。次年度の目標値については方針、計画に変更の必要がないと判断する。他方、社内活動が形骸化することなく、定めた目標値を常に監視する必要がある。 ・ エコ活動は環境保全維持と同時に企業のコスト削減、収益に直結していることは自明の理である。よって繰返し見直しを行い、わかり易く、使い易い内容にすることが必須である。加えて個別項目には数値的観測を常に怠ることのないよう願いたい。 ・ 「環境経営方針、活動計画、システム」については現行通りとし、継続する。また、前述したとおり、形骸化することなく、尚一層のエコ意識の向上と全社員への周知徹底を図り、当社の発展に寄与することとする。今、持続可能な社会を目指すべくSDGs促進が広く言われている。今後もエコ活動の基本精神を念頭に業務に当たる。	

Ⅸ　地域・社会貢献

令和4年3月24日
当社越路事業所中間処理施設隣接地
排水路清掃状況

令和4年4月26日
当社西津ストック場周辺
排水路清掃状況

地域・社会貢献活動の一環として、毎年年2回事業所･ストック場周辺の清掃を行っています。
又、緑化活動を行っている「緑の百年物語緑化推進委員会」の会員となり、地域の森づくりに協力しています。